

# 年度末を迎えるも、明るい兆しは僅か

## 3月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

### 概況

年度末を迎え、例年並みの推移や年度末需要の増加が見られる一方、競争激化や消費低迷の影響を受け、売上を落とす様子が窺える。人材確保の苦慮が続く中、僅かな明るい兆しに期待を寄せるも不透明感が強い。

製造業	食料品		パンは例年並みに推移する中、花見シーズン時の上向きを期待している。菓子は昨年より来客も注文も多く売上増である。製麺は節約志向による消費低迷と小売店などの販売先との厳しい取引条件で苦戦している。酒造は例年並みに推移している。
	繊維・同製品		婦人服地は展示会の来場者数が多く、今後に期待している。輸出向けは多少、引き合いが活発化している。和装織物は夏物シーズン到来に期待している。伊勢崎織物は職人の高齢化・人材不足の中にあつて、新柄開発が課題である。繊維製品は、売れ行きが悪く、先行きが不透明である。
	窯業・土石製品		生コンは官・民需とも落ち込み出荷量が減少している。コンクリートブロックは、例年並みに推移している。コンクリート製品は多少悪化し、景況感の好転はみられない。碎石は、西毛・東毛地域では売上増だが、その他地域は減少している。
	機械・金属		自動車関連は、富士重工関連は好調だが、一部メーカーによる生産調整やリコール等で売上が減少している。国内生産回復も窺えるが東南アジアへの生産移行を懸念している。プラスチック金型は、自動車関連、オフィス家具関連で受注増である。太田地域の金型は、富士重工関連で受注増だが収益確保難の状況である。
	その他の製造業		製材は、製品単価下落の上、荷動きの悪さが続いている。印刷は、年度末需要の増加がみられるが、県外業者との競争が激化している。ゴム製品は、受注は増加傾向の中、人材確保に苦慮している。紙加工品は、競争激化で販売量、販売価格の下落傾向が続くが、多少引き合いが増え、実需に結び付いている。
非製造業	卸売業		原材料や燃料のコストアップで卸売価格の上昇が続く中、消費者の買い控えによる収益低下を懸念している。農産物卸は、大きな天候変化もなく例年並みに推移している。水産物卸は、売上減少が続く、売上増加対策が最優先課題である。
	小売業		家電小売は、低迷が続いている。中古車オークションは出品・成約が安定し好調に推移している。ガソリン小売は、販売価格は昨年比18円/ℓの値下がり状況である。商店街は、春物商品の動きが鈍いなど買い控えが見られる中、プレミアム付き商品券の発行に期待している。生花店は、卒業、送別会等の時期で繁忙である。
	サービス業		温泉旅館は、外国人観光客や卒業旅行の入込が目立っている。不動産取引は、富岡市域で製糸場近くの貸店舗の取引が活性化するも、市全体への波及効果は弱い。建物設計は、東毛地域の工場、倉庫、店舗等の新築物件増を歓迎している。
	建設業		建築工事は、土木工事積算基準改正で適正利益確保の実現に期待している。電気工事は年度末の追い込みで多忙である。塗装工事も年度末で忙しい中、月後半は落ち着きが見られた。鉄構業は、仕事量は横ばいだが人手不足が続いている。
	運輸業		全体的に荷動きは低調で年度末の繁忙感はなく、長距離輸送が減少傾向である。一方、引越は忙しく人手と車輦確保が困難にある。倉庫は夏物商品の備蓄でいっぱいである。軽油価格は横ばいが続いている。小口輸送は、自動車部品、食料品が悪化する一方、卒業シーズンで貸衣装が伸び、建設関連もやや良好である。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

### 県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 114.9(前月比▲4.1%)「県統計課・2月」
- 販売電力量 139,488万KWh(前年同月比▲2.8%)「東電群馬支店・2月」
- 住宅着工戸数 860戸(前年同月比▲23.9%)「県建築住宅課・2月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規1.70倍・有効1.18倍「群馬労働局・2月」
  - 大型小売店販売額 197億円(前年同月比+1.9%)「経済産業省・2月」
  - 消費者物価指数(全国) 102.9(前年同月比+2.2%)「総務省統計局・2月」
- ＜鉱工業生産指数は17年=100とした指数・消費者物価指数は22年=100とした指数＞